

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902658
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる走水
訪問調査日	平成 20 年 12 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 29 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902658
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる走水
所在地	神奈川県横須賀市走水1-1-6 (電話) 046-846-5210

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年1月29日

【情報提供票より】(平成20年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	72,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ◆高台に位置し、居間にある大きな窓からは東京湾を一望でき、自然光が入り明るく、開放感がある。
- ◆職員は見守りを大切にし、利用者一人ひとりの思いやペースを尊重した支援をしている。
- ◆同一法人が運営する建物の1階にあるデイサービスの行事や地域の行事に参加したり、事業所が主催する行事に地域の方々を招待するなど、地域の方々との交流に努めている。
- ◆職員が向上心を持って働けるように、人事考課を取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果で改善課題はなかったが、2階の事業所入口について、利用者に馴染みのあるメロディーのチャイムを設置するとともに、職員の見守りと連携で対応することにより、施設することをやめた。また、利用者の外出する機会を増やすなどの改善を行った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義についてスタッフ会議で周知し、自己評価は管理者が中心となって行い、評価結果と改善点についてスタッフ会議で話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の指導により、昨年度まで大津ブロックの4事業所合同で運営推進会議を開催していたが、平成20年度からは事業所ごとに年4回開催することになり、利用者家族、民生委員が出席して、4月は事業報告や事業所内見学、今後の運営推進会議の持ち方について、8月は防災対策について意見交換を行った。今後は町内会長にも出席を依頼し、事業所が地域の高齢者へ協力できることはあるか、サービス評価などについて話し合う予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居契約時に重要事項説明書をもとに、意見・苦情・不満が表明できることを説明している。家族が来訪した際や年1回家族会の場を利用して、家族から意見等を聞くようにしている。家族から意見等が寄せられた際には、職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。外出時には挨拶することを心がけ、毎年地域の盆踊りやバザー等の行事に参加したり、事業所の餅つき大会に近隣の人に来てもらうなど、地域と積極的に交流をはかっている。また、開設時に、気軽に遊びに来て欲しいと近隣に案内をした結果、2名のボランティアが週2回来てくれるようになり、利用者との馴染みの関係を築いている。地域の複数の中学校から体験学習の受け入れも行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『利用者には、事業所でどのように暮らしてもらいたいか』という視点で職員間で話し合い、「地域の人が気軽に来られ、自分の家のような馴染みの暮らしを続けながら、利用者の持てる力を発揮できるよう見守りを大切に支援する」という事業所独自の理念を開設3年目に作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はエントランス、事務室に掲示し、誰でも確認できるようにしている。毎日のミーティング時や月1回のスタッフ会議でケアについて話し合う時に理念に立ち戻っている。利用者一人ひとりがその人らしさを失わず、持てる力を発揮できるように、職員は見守りを重視しながら支援している。職員が利用者の行動を制するような時には、「見守り」を心がけるように管理者から指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。外出時には挨拶することを心がけ、毎年地域の盆踊りやバザー等の行事に参加したり、事業所の餅つき大会に近隣の人に来てもらうなど、地域と積極的に交流をはかっている。また、開設時に、気軽に遊びに来て欲しいと近隣に案内をした結果、2名のボランティアが週2回来てくれるようになり、利用者との関係性を築いている。地域の複数の中学校から体験学習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義についてスタッフ会議で周知し、自己評価は管理者が中心となっており、評価結果と改善点についてスタッフ会議で話し合った。前回の外部評価結果で改善課題はなかったが、2階の事業所入口について、利用者に馴染みのあるメロディーのチャイムを設置するとともに、職員の見守りと連携で対応することにより、施錠することを取りやめた。また、利用者の外出する機会を増やすなどの改善を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の指導により、昨年度まで大津ブロックの4事業所合同で運営推進会議を開催していたが、平成20年度からは事業所ごとに年4回開催することになり、利用者家族、民生委員が出席して、4月は事業報告や事業所内見学、今後の運営推進会議の持ち方について、8月は防災対策について意見交換を行った。今後は町内会長にも出席を依頼し、事業所が地域の高齢者へ協力できることはあるか、サービス評価などについて話し合う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市グループホーム連絡協議会の研修に参加した際に、市の担当者と情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した際に、利用者の暮らしぶりを伝えている。毎月個別に生活の様子を記録したものと金銭管理表を送付している。心身に変化が見られる時は、電話で家族に連絡し対応を話し合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に重要事項説明書をもとに、意見・苦情・不満が表明できることを説明している。家族が来訪した際や年1回家族会の場を利用して、家族から意見等を聞くようにしている。家族から意見等が寄せられた際には、職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着をはかるため、人事考課を取り入れるとともに、能力や成果を重視し向上心を持って働けるようにしている。職員が代わる場合は一人ひとりの利用者に紹介し、馴染みの職員と新しい職員がともにケアにあたり、スムーズな引継ぎを行えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を事務室壁に貼り出し、参加を希望する職員がいる場合はシフトを調整している。法人内研修として、初任者研修とスキルアップ研修に参加し、接遇や個人情報保護等について学んでいる。受講後は報告書を作成するとともに、ミーティング時にポイントを説明してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市グループホーム連絡協議会に加入し、研修やスタッフ交流会に参加して、他の事業者と事業運営や利用者との関係作りなど情報交換を行っている。平成20年11月には近くの事業所と交換研修を実施した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人に事業所を見学してもらい、事業所の雰囲気を知ってもらうようにしている。入居当初は職員がそばで見守りながら気軽に話せる雰囲気づくりを心がけ、安心感を持ってもらうように配慮し、徐々に馴染んでもらうようにしている。また、他の利用者が話しかけることで、より安心感を持ってもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と食事作りをともにしながら、味付けのアドバイスを受けて、昔からの習慣や行事、季節の食べ物のことを教えてもらっている。また、職員の体調が悪い時に、利用者から気遣う言葉をかけてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員でモニタリングを輪番制にして、一人ひとりの利用者によりゆとり時間をかけて耳を傾け、利用者が取った行動についても、その理由や原因を見極め、「気づいたことシート」に記録している。「気づいたことシート」に基づき、ミーティングで話し合い、利用者の思いの実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人、家族からアセスメントを行い、「気づいたことシート」を活用して、職員の意見を聞きながら、短期と長期目標を立てて介護計画を作成している。介護計画の作成にあたっては、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後利用者に状態の変化が見られたり、新たな要望がある場合には、職員間で話し合ったり、「気づいたことシート」などで意見交換をしながらケアの見直しを行っているが、介護計画の見直しへの反映にまでは至っていない。現在数名ずつ介護計画の見直しを始めた段階である。	○	介護計画の見直しを速やかに行うとともに、家族の同意を得ることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にある同一法人のデイサービスで催される行事に参加して、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。また、年1回法人全体の一泊旅行があり、希望する利用者は参加して心身のリフレッシュをはかっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診医療機関について本人、家族から希望を確認している。事業所の契約する協力医療機関以外に通院を希望する場合は、家族が付き添っている。医師からの指示や薬については家族から口頭で報告を受けていたが、医療機関との連絡方法を書面でのやり取りに変更した。他の利用者は事業所の契約する協力医療機関の訪問診療を月2回受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用契約書に基づき、重度化した場合や終末期は他の施設や病院に移ってもらうことを説明し、家族の了解を得ている。平成20年4月より24時間対応可能な訪問看護と連携して医療連携加算体制となったことを機に、将来的にはターミナルケアを行う方向で、職員間で話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護に関する法人内の研修を受講し、プライバシーを損ねない対応を徹底させている。利用者への声かけ、トイレ誘導する時は声の大きさなどに配慮し、着替えなどの介助が必要な場合は居室で行うようにしている。必要書類は鍵のかかるロッカーに保管し、パソコンの情報はパスワードで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は比較的自由に起床して、それぞれのペースで朝食をとっている。日々の過ごし方も、その日の天気や気分にあわせて散歩や買い物に出かける人、趣味を楽しむ人など思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕の食事は、食材の配達サービスを利用しているので献立は決まっているが、昼食はみんなで献立を考え、利用者の嗜好を取り入れながら作っている。野菜を切ったり、盛り付け等を利用者が行い、職員も同じ食事を摂っている。誕生日など行事の時は重箱に盛ったり、外から取り寄せたり、夏は流しそうめんをするなど、食事を楽しめるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、利用者の希望する日や時間帯に入れるようになっている。菖蒲湯や柚子湯などで気分を変えることもある。入浴を好まない利用者には、声かけを工夫するなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物に行くことを楽しむ人、職員と一緒に食事作りをする人、洗濯物が置いてあると自発的にたたみ始める人など、一人ひとりの気晴らしや役割を持ってもらっている。自作の句を筆でしたための作品を居間の壁に掛けている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「天気が良いから散歩しましょうか」、「花がきれいだから見に行きましょう」など、利用者の関心をひく言葉をかけ、散歩や買い物など外出を促している。利用者の希望でショッピングセンター内のペットショップを訪れたり、全員で川崎大師などにも外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階にある建物の玄関は危険防止のため施錠しているが、2階の事業所の入口は利用者に馴染みのあるメロディーのチャイムを設置して、行動を制限せずに職員は見守りを行っている。1階まで降りる利用者には、デイサービスの職員と連携し、1階から連絡を受けられる体制になっている。居室に鍵はついていない、自由に入ることができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施し、消防署に「避難訓練実施届出書」を提出している。平成20年度は12月に消防署の立会いで夜間を想定した訓練を行う計画がある。非常食・水などの備蓄をし、外部の専門企業から防災設備の点検を年2回受けている。今後は運営推進会議などを通して、地域に協力を呼びかけていく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の食事摂取量と水分摂取量を記録している。便秘予防のためにも水分摂取には留意している。朝夕の食事については、食材の配達業者にカロリー量等の情報を提供してもらっている。今後は、利用者が摂取した食事量をもとに栄養士にチェックしてもらって体制作りをしていく意向である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、不快な音や臭いは感じられない。居間は海の見える二面に窓を大きく取っており、明るく開放感がある。居間のテーブルやエントランス、洗面台など至る所に観葉植物や花が置かれ、全体的に和める雰囲気になるよう気配りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の持ち込み品リストに、本人にとって安心できる空間になるよう、使い慣れた家具、大切な物を持ってきてくださいと明記しすすめており、居室には使い慣れた家具やリクライニングチェア、人形、写真などが持ち込まれ、それぞれの設えになっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる走水
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横須賀市走水1-1-6
記入者名 (管理者)	佐々木 知子
記入日	平成 20 年 10 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご入居者の方にグループホームでどのように暮らしていただきたいのかを話し合い、事業所の運営理念として掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は職員やご家族の方にも見える場所に掲示しており、ケアに関する話をするときは(ミーティング等)理念に沿ったご入居者様との関わりが出来るように心掛けている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念を来訪される方にも見える場所に掲示している。また、毎月発行していた「走水だより」は現在発行できていない。	○ 毎月発行していた「走水だより」を発行していく。(毎月を隔月に変更)
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事にはご入居者の方も含め、参加するようにしている。また毎年、餅つき大会を開催し近隣の方にもポスターなどのご案内をしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の町内会や民生委員の方から、近所で開催される行事などのご案内をいただき参加している。町内会に加入。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度から新しい形式で始まった運営推進会議の中で近隣の民生委員の方達と情報を共有・交換できることようになった。話し合いの場は持っているが、取り組みには至っていない。	○	地域に暮らしている高齢者は多くいるので、今後、事業所で出来ることを探していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることで日々の振り返りをし、評価結果を職員間で確認。改善点についてもミーティング等の場で対応策を検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、ご家族や民生委員の方も含めた会議開催となり外部評価の報告を行う。	○	外部評価の項目を、運営推進会議の中でも多く話し合いが出来るように今後も取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、行事などが開催をされる際に町内の民生委員の方とは行き来する場がある。	○	今後も活発な情報交換をして、地域に密着した事業所にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っていない。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていない。	○	市から虐待防止に関する研修に関して案内が来た際には、積極的に参加する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所にて、契約書に沿ってグループホームの運営理念や方針、生活の様子などをご家族の方に説明をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	共有の場ではなく、それぞれの居室で話しをする時間を作り話し合い状況で意見や要望、苦情を聞き取るようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個別に日々の「生活の様子」を記録したもの、お小遣い帳を郵送している。健康状態に変化が見られた時はご家族に連絡・相談をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記、契約時に説明をしている。	○ ご家族の方からいただいた意見や要望・苦情を記録し残していけるように取り組む。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフミーティングを開催している。夜勤者以外、なるべく参加するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月のミーティング以外での話し合いの場は確保出来ていない。	○ 勤務者が参加できる形でのケアカンファレンスを増やしていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご入居されている方が不安を感じないように、新しく職員が入る場合には一人ひとりに紹介をしている。可能な限り。ケアに関わる際は馴染みのスタッフが側で見守る。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	株式会社スマイルでスキルアップ研修やリーダー研修を実施している。外部の研修も社内回覧で案内をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に加入し協会の主催する研修や勉強会・グループホーム間の見学会やスタッフ交流会などに参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の月間目標などの掲示や職員の働きやすい環境を作るように取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を取り入れ、職員ひとり一人に自己評価をしてもらい面接をしながら個々の能力や成果に対する部分を重視し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居の申し込みがあり、入居が決まった際はアセスメントに伺い直接ご本人に話を聞いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接ホームに来て頂いたり、電話での問い合わせなどご家族の都合の良い方法でご連絡を頂くようにしている。契約の際はホームに来ていただきご家族と話しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学来られた方、それぞれ状況が違うので見学に来られるまでの経緯なども差し支えない範囲で伺い、市内で空き部屋があるグループホームの紹介や他のサービスもあることを説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人と一緒に見学に来られ雰囲気を確かめる方もいるが、実際は他施設からの入居となる場合が多くサービスの利用以前に来られる方は少ない。	○	サービス利用開始前も、何度かホームに来ていただき雰囲気に馴染めるよう関係を築いていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームは認知症高齢者の方が主体となって生活をする場であることを意識して働いている。「出来ることは一緒に」を常に心がけて関わりを持っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を記録で読んで頂いたり、面会に来られた際に生活の様子をご報告しご家族の意見や要望を聞きながら一緒にご入居者のことを支えていけるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式によるアセスメントを実施。ご家族を含めた本人の現在に至るまでの情報を聞き取るようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所・物が大切であることをご家族の方にも理解していただき、協力が必要な場合には相談をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士の関わりをスタッフは注意して観察し、支えあいが見られる場合にはその関係が途切れないよう、また反対にコミュニケーションなどに問題がある場合には不安などを感じないようにスタッフも間に入り関わりを持つようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終わっても、何か困ったことがある場合にはいつでも連絡をして下さいという事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や思いを聞き逃さない為に、スタッフが気づいたことや本人の言葉・行動を「気づいたこと」シートに随時書き込んでいる。書き込んだ内容は必要に応じてスタッフ間で相談し対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施。ご家族を含めた本人の現在に至るまでの情報を聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の様子や個別の記録(BP/食事量/水分量等)を日勤者・夜勤者が記録し、出勤したスタッフ(早番・日勤・遅番・夜勤者)は必ず目を通すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の方には、計画作成時に関わらず面会に来られた時などに随時、要望や意見を聞くようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画書の作成が出来ていない。	○	現状に即した介護計画書を作成していく。ケアの見直しをした際には随時、介護計画書に反映していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を日勤者・夜勤者が記録し、出勤したスタッフ(早番・日勤・遅番・夜勤者)は必ず目を通すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にデイサービスが併設されているので、年中行事などが催される時にはグループホームの利用者の方も一緒に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年度から運営推進会議の中で民生委員の方と関わりを多く持つ機会が増え、地域の行事などに参加し個々の楽しみになっている。 週2回、ボランティアの方が来ている。 近隣の中学校から体験学習を受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在まで、グループホーム以外のサービス利用を希望する方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、地域包括支援センターとの関わりは年2回開催される運営推進会議の時のみ。	○	運営推進会議の中でも今後の必要時には相談をしていきたいことを伝えていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡の取れる往診医療機関がある。 利用者の身体で気になる事がある場合には家族に報告し、往診医療機関へ相談・又は専門医療機関へ受診できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係作りは今後の課題。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を取り、24時間対応可能な訪問看護師が毎週1回来訪している。日常の健康管理(血圧や身体機能など)を支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時には、病院関係者との情報を交換している。必要な場合はご家族と一緒に病院へ行って説明を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関から終末期となり医療行為が必要と判断を受けた場合には、現在は退去という方針である。ご家族には身体状況の変化があった場合に都度説明をしている。また、契約の際、介護度が重度化し、本人にも負担となるような状況が発生した場合には特別養護老人ホームへの入所もあり得ることを説明している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度になったご入居者の方にとって望ましい場所はどこなのかを職員間やご家族ともよく話し合い支援していくように努めている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のグループホームや施設に入居される方が、移り住んだ先で不便や思いや戸惑いを感じないようにケア関係者の方に説明し情報を交換している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	共同生活をしている場であるので、常に一緒に暮らしている方との関係にも配慮しながら(声の大きさ・伝え方・場所)対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた言葉で説明をしたり、質問の方法を一言で答えられるものではなく、自分の意思を伝えられるような質問に変えてみたり工夫をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームで生活している利用者の方が主体であって、その人のリズムに合わせることを常に意識して支援するようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	パーマやカラーを希望する利用者の方は、近所の美容室へ出かけている。また、週1回、訪問理容も来ている。また、利用者の方の生活習慣を大切にし作務衣を好まれる方やスカートを好まれる方等、それぞれの過ごしやすい服装で暮らしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材配達サービスを利用しており、献立は朝・夕と決っているが、必要に応じてオリジナルのメニューに変えている。また、昼は自分達でメニューを考え、利用者の方の馴染みの味や季節の食べ物を取り入れている。食事の準備は食材を切るところから出来るかたは一緒に行っている。盛り付けも一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事の時など、希望される方がいるのでその時は好みのものを用意している。生活習慣はグループホームに入居しても変わらないように、継続できるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するために、24時間の排泄チェック表を利用している。より細かい情報を集めたいときには、センター方式のシートを利用し出来ること・可能なことを探っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるように準備している。曜日は決めていない。時間の希望がある場合は希望に合わせて夕方から入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々睡眠時間に応じて、昼間でも無理に起こしたりせずに必要な睡眠(時間をみながら)を取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなこと・興味のあることは一人ひとり違うので、常に利用者の方が皆と一緒にするのではなく、スタッフが個別でケアもしている。散歩や買い物へ行ったり、洗濯ものをたたんだり。本を見たり、歌をうたったり。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、買い物へ出かけてもお財布はスタッフが持ち支払いもスタッフが行っている。	○	買い物へ行って、自分で好きなものを買って来たという感覚が大事。出来ること、出来ないことを見極め支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望があれば、散歩やドライブ、買い物に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりが行ってみたい場所への外出よりは、利用者全員で外出する機会が多い。季節の花を見に出かけたりなど。回数は少ないが、個別の思い出がある場所(銭湯や東京)まで出かけたことがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、電話をしている。手紙も届いた時は返事を書けるようはがきを買って行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は特に設けず、いつでも来ていただけるようにしている。 グループホームの様子を知っていただくように「走水だより」と言う写真付きの便りをご家族へ郵送していたが、現在は休刊となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、スタッフ全員が具体的な行為を正しく理解するようにしていく。	○	市から身体拘束に関する研修に関して案内が来た際には、積極的に参加する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関はデイサービスが併設されており利用者の方の安全の為、鍵がかかっている。2階入り口は、いつでも出入りが出来るようにしている。(ドアが開くとメロディが流れるチャイムが付いている。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は食堂で過ごされる方が多い。食堂には必ずスタッフが1名いるようにしている。動きの活発な利用者は所在の把握をスタッフ間で共有している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	口にものを運んでしまう方の部屋には、害になるようなものを目のつく場所に置かない工夫をしている。本人が管理できる場合には部屋に置いている。(化粧品など)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた時の対応はマニュアルに作ってあるが、事故防止の為の取り組みは危険を予め察知したり予測出来る場合、スタッフ間で防止の為の方法を話し合っている。(転倒や誤薬)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法を手順を事務所内に掲示している。定期的な訓練は出来ていない。	○	ミーティングの際など、定期的で開催している場で心肺蘇生法の手順を皆で確認するなど訓練の機会を工夫していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は事業所で年2回実施している。(昼間の場合と夜間を想定し) 近隣の防災訓練に参加。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約の際、重要事項説明書の説明をしておりグループホームの運営理念を時間をかけてお伝えしている。その中で起こり得る危険についても説明。大切にしていきたいことを理解していただけるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、個別記録に記入している。(食事量・排尿回数・排便日も記録)いつもと変化があった場合、申し送りをしスタッフが変わっても情報を共有できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬が分かる一覧をファイルで綴じている。副作用についても記載されており、いつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多めに摂取するように工夫したり、乳酸菌を含む食品を摂取するように工夫している。散歩や午後からは体操の時間を作っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施。自分で磨けるかたは自分で磨いている。必要な場合、介助している。義歯の方は就寝前に洗浄剤を使用している。週1回、訪問歯科の往診あり。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助や声をかけ見守りが必要な方には利用者に合わせた食事量を摂取できるように支援している。水分摂取に関しては、甘い飲み物を好まれる方、お水が良いという方、それぞれに合わせて特に注意して声をかけ飲んでもらうようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間、布巾などは漂白している。 食材配達を利用しているが、冷凍されている野菜より生野菜を出来る限り配達していただくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が福祉施設と分かりづらい為、入り口利用者の方と一緒に作った看板を設置。掲示板には、行事やお知らせがあるときポスターを貼って気軽に來ていただけるように心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間、日差しが入る時はなるべく室内の照明はつけず自然の明るさにしている。見ていないテレビは消して、利用者の好きな音楽をかけるようにしている。排泄後の臭いにも配慮し、芳香剤の臭いよりはお香の香りを楽しめるようにしている。(ひのきの香りは消臭効果あり)		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳に腰掛け休んだり、廊下の一角で椅子に腰かけ話しが出来るにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものを出来るだけ変えずに、居心地の良い部屋であるようにご家族に説明し、協力してもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋の温度は動いているスタッフに合わせるのではなく、利用者に合わせた温度調節をしている。外の気温を感じていただく意味でも窓を開けて空気の入替は随時している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどには手すりを設置。居室に関しても必要に応じて手すりを取り付けている。また、ベッドやタンズの位置も動線を考えて配置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりずらさをなくすよう、一人ひとりの馴染みやすい環境、方法で暮らせるようにスタッフが決めるのではなく、利用者の週間ややり易い方法で暮らせるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには季節を感じられる桜や紫陽花、ひまわりを植えている。	○	プランターを利用して、季節の野菜を育てて食卓で楽しめるように取り組む。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

窓が多くあり、景色を眺めるには最高な環境です。眺めが良い日は、天気誘われて外に足が向かう方もいます。入居者の方、一人ひとりのリズムに合わせた支援に取り組んでいます。